

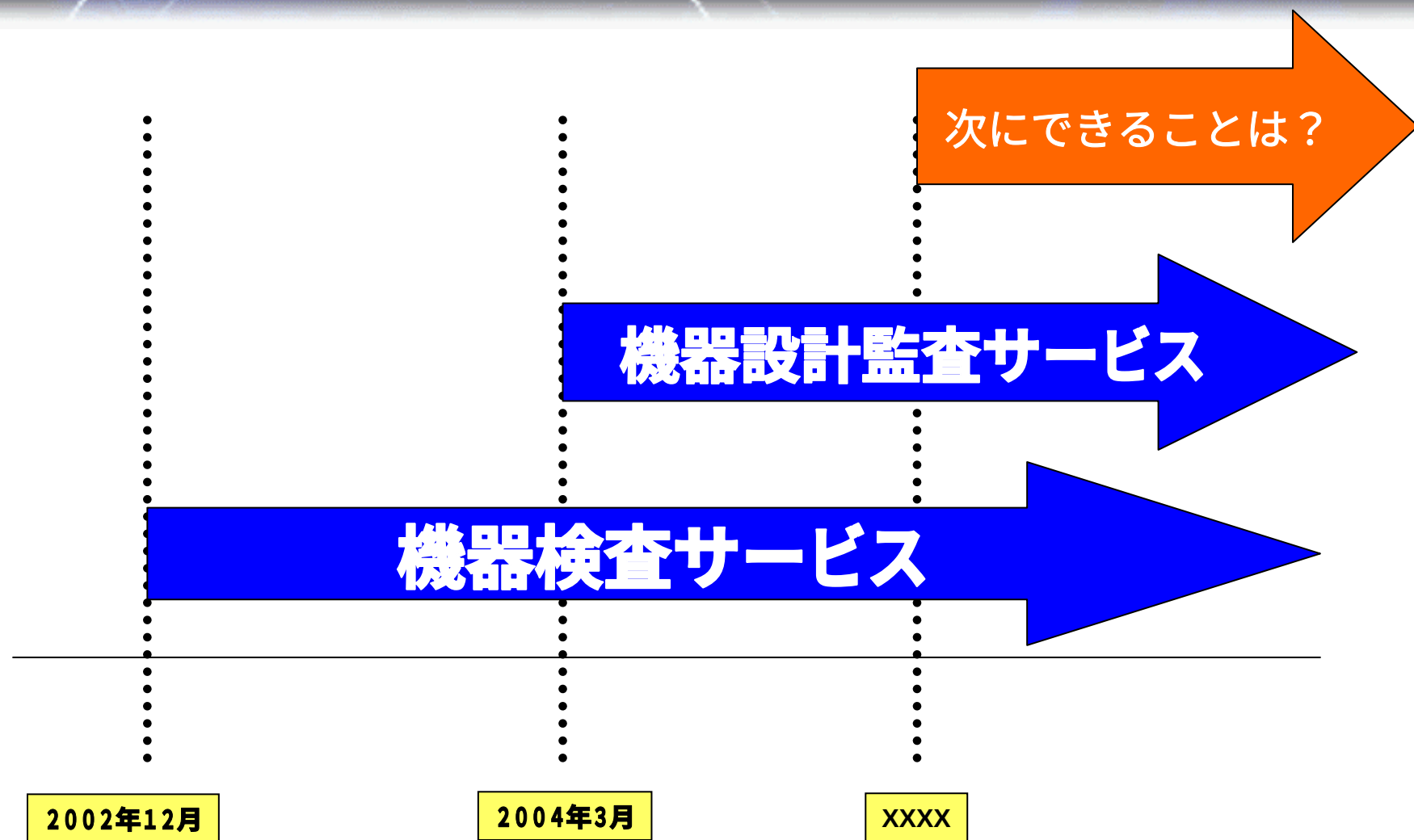
セキュリティベンダの情報家電セキュリティに対する取り組み

～安全・安心な情報通信社会の実現のために～



株式会社ラック

- セキュリティベンダの取り組み
- 取り組みの概要と懸念事項
- 家電ベンダの目線で考えると
- 通信事業者の目線で考えると
- まとめ(提言)



(株式会社ラックの例)

• 機器検査サービス

- 攻撃者の目線で、機器(モノ)に対してネットワーク越しの攻撃を行い、その挙動などを調査する
- 実際に脆弱性を発見したキャリアを持つ技術者が担当することで、考え付く限りの限りあらゆる手段を行使

問題点

- * 担当技術者のスキルへの依存、結果のばらつき、コストの高さ
(特にコストの高さはお客様への高い負担)
- * 検出された脆弱性の数や深刻度を測る指標の不足
(通信事業者の目線との乖離)

• 機器設計監査サービス

- 攻撃者の目線で、仕様書等機器の設計をチェック
- 実際に脆弱性を発見したキャリアを持つ技術者が担当することで、考え付く限りの限りあらゆる脅威を列挙

問題点

- * 担当技術者のスキルへの依存、結果のばらつき、コストの高さ
(特にコストの高さはお客様への高い負担)
- * サーバ世界のセキュリティ対策の設計と通信事業者の
セキュリティ対策との目線の違い

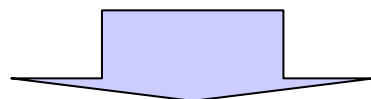
• 情報家電は・・・

- 「どこまでセキュリティ対策を行えばよいのか？」に対する回答がない
- ライフサイクルが短く、開発プロジェクトが終わると開発メンバーが別のプロジェクトに移るため、保守が難しい
- ユーザの所有物であるという認識が強いため、強制アップデート手段などを用いることに関して慎重にならざるを得ない

• 情報家電は・・・

- ワームやBotなどの有害プログラムにとってはPCと同じように、IPを持つホストにすぎない
- ユーザが設定を極端な内容に変更したとしても、トラヒックが増えないようなくみであって欲しい
- 停電等で再起動した際に、一斉にセンターサーバに通信することでトラヒックが増えないようなくみであってほしい

- **情報家電のセキュリティ対策標準が必要なのではないか**
 - 標準化を進めることで、セキュリティベンダの体制の構築、作業の統一などのコストダウンの実現
 - 標準を策定することで、家電ベンダ側でとるべき方策が認知できる
 - 通信事業者側がとるべき施策が減ることになり、コストダウンの実現



**一般のユーザは情報家電は安全と認識して、
「あんしん」して情報家電が使える！**